

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4079500221		
法人名	有限会社 元気の里		
事業所名	グループホーム 元気の里		
所在地 (電話番号)	福岡県田川郡糸田町2495-1,2 (電話)0947-26-1682		
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年9月15日	評価確定日	平成21年10月20日

【情報提供票より】(平成21年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年5月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 9 人, 非常勤 人, 常勤換算 8,4 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	11,500 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1100 円	

(4) 利用者の概要 (9月1日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名
要介護3	1 名	要介護4	1 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 歳	最低 78 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中富内科医院・山下歯科
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「元気の里」は町役場や公共施設に近く、広いリビングからは頭を垂れた稲穂など、四季折々の風景を見渡すことができ、小学生の登下校の姿もある。食事についての取り組みは特筆すべき点であり、旬の新鮮な野菜・施設長宅で収穫された米を五分づきにするなど、地産地消にこだわりながら、新鮮・安全な食材を個々の嗜好や習慣に合わせて提供している。健康面では医療連携による日々の健康管理や状態変化時の迅速な対応に努め、本人・家族の安心となっている。昨年は全員参加の一泊旅行を実施し、入居者・家族・職員の絆が深まるなど、大きな収穫があった。今後もホームの理念のもとに地域との交流を大切に、入居者の安全で快適な暮らしが継続できるよう「元気の里」づくりに取り組んでいきたいと考えている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>昨年の評価について会議で評価結果を報告している。重度化や看取りについては医療連携を構築する際に取り組み、入居者の健康管理の充実につながっている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員で少しずつ分担して自己評価を行い、管理者によってまとめられている。新たな「気づき」もあり、今後のサービス向上につなげていきたいと考えている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>家族・地域・行政等、各方面からの出席により、2ヶ月に1回定期的に開催されている。行事の案内、報告、火災報知器の説明、小学校との交流等について話し合いが行なわれている。ホームの状況について理解を育み、率直な意見交換の場にもなっており、有意義な開催となっている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>玄関に苦情相談窓口を掲示している。家族から相談などあった場合、苦情処理マニュアルに沿って対応するようにしている。医療面での相談がある場合は、主治医や看護師の意見も取り入れ、家族に納得してもらえるよう説明を行っている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームの敷地で毎年納涼大会を行っており、育成会・成年会・婦人会等の方々の協力にて、盛況に開催される。地域行事として定着しており、入居者も一緒に楽しんでいる。「こども110番の家」に登録しており、見守りや声かけに協力している。自然な形で、地域との付き合いがある。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	管理者と職員により「理念とは何か」という根本的な考え方から取り組み、思いやりをもってやさしく声かけをします。安全で快適な環境作りをします。地域との交流を大切にします、という3つの理念を開設時に作り上げた。それぞれの思いがこもった独自の理念となっている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	理念の共有を育んでくれている職員がおり、「ちゃんと確認していますか？」と他職員に投げかけてくれている姿がある。ミーティングなどで唱和する取り組みも行っている。玄関・居間など、見やすいところに大きな文字で掲示している。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	ホームの敷地で毎年納涼大会を行っており、育成会・成年会・婦人会等の方々の協力にて、盛況に開催される。地域行事として定着しており、入居者も一緒に楽しんでいる。「こども110番の家」に登録しており、見守りや声かけに協力している。自然な形で、地域との付き合いがある。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	職員全員で分担して自己評価作成に取り組み、管理者がまとめている。新たな「気づき」もあり、今後のサービス向上に活かしていきたいと考えている。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	家族・地域・行政等、各方面からの出席により、2ヶ月に1回定期的に行われている。行事の案内、報告、火災報知器の説明、小学校との交流等について話し合いが行なわれている。ホームの状況について理解を育み、率直な意見交換の場にもなっており、有意義な開催となっている。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

グループホーム 元気の里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	町役場の担当職員へは、疑問や質問があればその都度相談し、助言を得ている。解決できない場合は、県の担当者へ繋いでくれる等、町役場と一体となりサービス向上に取り組んでいる。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	現在、日常生活自立支援事業や成年後見制度について、活用している入居者の方はいないが、ホームとして必要時に支援ができるか疑問である。まずは管理者や責任者が研修等に参加し、知識を深めるとともに、職員への伝達研修が必要であるとの認識がある。		権利擁護に関する制度について、資料の整備や学ぶ機会の確保が求められる。必要となった場合に活用できるよう、今後の取り組みに期待したい。
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	毎月家族通信を発行し、生活状況等について写真を掲載して送付している。家族の来訪時にも近況報告など行うように心がけている。家族は支払いの為に毎月来訪があり、金銭管理はその都度説明を行っている		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	玄関に苦情相談窓口を掲示している。家族から相談などあった場合、苦情処理マニュアルに沿って対応するようにしている。医療面での相談がある場合は、主治医や看護師の意見も取り入れ、家族に納得してもらえるよう説明を行っている。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	職員の異動は行われていない。離職もほとんど無く、職員は責任感を持って勤務している。日頃より、家族・友人・地域住民の来訪も多く、入居者の方々も「ゆっくりしていきなさい」などの声かけをしてくれる。そのため新規採用者が馴染みの関係になることも早く、影響は少ないと思われる。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	採用にあたり特に制限は設けていない。働く意欲を重視している。職員の経験や得意分野が活かされるよう、役割分担を考えた勤務体制としている。資格取得に対する支援も行われている。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

グループホーム 元気の里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	日々のケアの場面での注意点は、申し送りやミーティング等において周知徹底を図り、人権尊重がケアの柱であることを職員全員で共有している。今後は外部研修等に参加し、伝達講習や勉強会の開催を行なう予定となっている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	栄養・インフルエンザ等の研修資料を確認できる。今後外部研修に参加する機会を作りたいと考えている。職員の積極的な研修参加に期待したい。		限られた人員配置の中で難しい面もあるが、職員の能力や経験に応じた研修の確保が求められる。ホームの状況にあわせた研修計画作成や育成方法について検討が必要である。
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	グループホーム協議会に所属し、職員・管理者の意見交換や学習の場となっている。地域での交流の機会について、現在模索している。今後の充実に期待したい。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居に関しては、本人・家族とのかかわりを大切にしている。ゆっくりと話し合い、なじみの関係を築きながら、見学や体験入居へと進めている。入居後も家族の協力を得ながら、不安なく落ち着いて過ごせるよう支援している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	年長者である入居者の方々から、生活の知恵や知識を教えてもらう事も多い。教わったことなどは出来る限り記録として留めておこうと考えている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

グループホーム 元気の里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	職員は入居者の方々との、コミュニケーションを大切に、難聴の方や発語できない方に対しても、思い込みの支援とならないよう本人本位の検討に努め、情緒面の安定につながるよう努めている。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	計画作成にあたっては情報収集を重視しており、センター方式の活用等により、個別の自立支援の計画となるよう努めている。介護記録も計画にそった内容となっており、わかりやすい。職員全員でのミーティングで意見やアイデアを出し合い、参考にしながら作成している。		本人・家族の意見やアセスメントから問題点を抽出した方法、職員の意見等がミーティングノートに丁寧に記載されている。今後は介護計画書における、日付や同意についての確認ができるよう書類整備にも期待したい。
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	毎月のミーティングで、一人ずつ介護計画を見直す取り組みを行っている。短期目標も毎月設定し、モニタリングを記載されている。詳細な見直しが行われていることが確認できる。状況が変化した場合は随時見直すようにしている。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	家族と共に外出に出掛けたり、希望により宿泊にも対応している。「子ども110番」に登録し、入居者とともに見守りや声かけを行なっている。去年は家族と一緒に1泊旅行にも出かけており、出来ることを柔軟に支援したいといつも前向きに検討している。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	かかりつけ医との連携により、一人ひとりの状態に応じた支援を行っている。認知症専門医の受診や定期的な健康チェックが行なわれている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

グループホーム 元気の里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化や終末期における対応方針を整備し、本人・家族に説明し同意を得ている。本人・家族の意向を尊重しながら、かかりつけ医と話し合いを行い、職員間で共有している。看取りの経験もあり、今後も医療職との連携や職員の意識を高めながら、家族との協力により取り組んでいきたいと考えている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	誇りや尊厳を損なわないように、日々声かけや対応には配慮している。個人情報や記録の管理には規定を遵守している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	ホームの1日の流れはあるが、入居者に応じた生活パターンを大切にしている。本人の意思を確認し、その人らしく一日が過ごせるよう支援している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	野菜は地元の新鮮な旬のものを使用し、米は施設長宅で収穫されたものを五分づきとしている。近所の商店まで入居者と買い物に出掛け、嗜好を取り入れながらメニューづくりを行なっている。調理準備や後片付けを共に行ないながら、職員も同じテーブルを囲んでいる。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	希望時にはいつでも入浴できるようにしている。週に2回は気持ちよく入浴していただけるよう取り組んでいる。足浴は日課として行っている。自宅にいるときから入浴習慣のない方もおり、どうすれば入浴を楽しめるのか、日々試行錯誤しながら取り組んでいる。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム 元気の里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	洗濯物たたみなどは習慣になっており、野菜の下ごしらえや縫い物など、得意としていることなどを大切に役割をお願いしている		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	気候にあわせた身支度を整え、日常的に散歩にでかけており、近所の方々から花や野菜の差し入れをいただく事もある。ドライブや買い物に出掛ける事も多い。喫茶店でのパフェは大好評であり、一人ずつ精算をすませてもらった。家族との外食も楽しみの1つとなっている。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	開設以来、日中は玄関に施錠することなく過ごしている。来訪者も多く、入居者の方々も対応に慣れており、挨拶や言葉掛けでもてなしている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	年に2回の消防訓練を行っている。自動火災報知器・通報システムも整備されている。地元消防団との連携も構築されており、災害時には相互協力が出来るようになっている。ホームでの災害時の対応をマニュアル化しており、事務所内に掲示している。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	関係者である栄養士にアドバイスを受けながら、栄養バランスに配慮している。個々の状態にあわせた調理方法となるよう配慮している。食事・水分量をチェックし、健康管理表に記入している。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

グループホーム 元気の里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	日当たりの良いリビング・キッチン大きな窓からは、季節の変化や人通りも眺める事ができ、ソファの配置により、くつろげる空間となっている。清潔感があり、また手すりの設置等、安全面にも配慮されている。家庭的な雰囲気を大切にしており、さりげない飾り付けとなっている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	入居時に本人・家族による部屋作りが行なわれている。自宅より使い慣れた筆筒や椅子等が持ち込まれ、また家族の写真や好みの飾り付けがなされている。安全面を考慮しながら、できる限り本人の意思を尊重した配置となっている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			